

■書 ■籍 ■紹 ■介

『診療情報による医療評価— DPC データから見る医療の質』

松田 晋哉／伏見 清秀 編

A5 判 256 頁 定価 4,200 円＋税 2012 年
東京大学出版会 ISBN978-4-13-060409-3

日本における医学研究は基礎医学に偏重し、臨床研究は欧米の後塵を拝している。この原因の 1 つに、日本の疫学・公衆衛生学などの社会医学研究者と臨床医との交流が少なかったことがある。今後、日本の臨床疫学研究が世界に伍して持続的に発展を続けていくためには、臨床医学と社会医学の連携が不可欠で、その突破口として DPC などのデータベースを活用した研

究が求められる(第 10 章、康永より)。

DPC (Diagnosis Procedure Combination) は、患者を傷病名と医療行為から分類する患者分類システムであるが、単に診療報酬請求のために利用するだけのものではない。標準化情報データである DPC には、他国には例を見ない大規模で詳細な情報が収集されうる。日本における医療の将来のために、こうしたデータベースの構築が広く認識され、活用されることが必要となる。本書はその契機となる 1 冊となるはずである。

